

未来は今の延長線

山添村立山添中学校三年

山口 智子

「世界で最も清潔な汚水」というタイトルの動画が流れてきた。いつもなら指をスライドさせ、視聴するのもやめるのだが、少し気になつて指を止めた。その動画では、アメリカのある浄水会社の商品が紹介されていた。この商品は水不足に悩む途上国や災害地域向けに開発されたものだそうだ。大きさや形は点滴をするときの輸液バッグによく似ている。このパックの中には色のついた粉末が入っており、泥水や海水に入れると袋がふくらみ、味のついた清潔な飲み物が得られるというわけだ。動画によると、この袋の中には電解質粉末というものが入っており、水源に触れると、粉末が浸透圧を生成し、袋の外にある水を自動的に吸収するシステムになっているそうだ。簡単に言うと、この袋がろ過装置になつており、袋の外にある汚い水を、きれいに

するということになる。

動画のコメント欄を開くと、この商品をする
ごいと言ひ、開発した人をほめたたえるコメ
ントが多くあつた。確かに被災地など、水が
不足し、困っている人に届けることができれ
ば、たくさんの人を助けられるだろう。

しかし、同時に本当に大丈夫なのかという
気持ちがあがってきた。どれだけ画期
的な素晴らしい商品だとしても、泥水や海水
が水源からでは危険ではないかと。私と似た
コメントも見つけた。だが、そこには、自分
たちがこう思えるのは恵まれているからだと
も書かれていた。私はハツとした。この動画
を見て、すごいで終わらせた自分を恥ずかし
く思った。

実際に、日本は水に恵まれている国だと言
えるだろう。蛇口をひねれば清潔な水が出て
きて、水道水も煮沸せずにそのまま飲める。

このような国はとて少ない。二〇一八年の
国土交通省の調査によると、世界で安全に水

道水を利用できるのは、九ヶ国と二つの都市だけであることが分かった。ほとんどがヨーロッパに位置する国で、アジアでは日本のみだそうだ。

なぜ日本の水は安全なのか。その理由は二つある。一つ目は、国土面積が小さく、インフラ整備が他国に比べて容易にできるから。インフラとは、人々の生活を支える基盤のこととで、電気やガス、水道もこれに当てはまる。二つ目は、日本の浄水技術がすごいからだ。色や濁り、塩素の残留は一日に一回以上検査するなど、定期的に厳しくチェックし、私たちに安全な水を届けてくれるのだ。

このように、水が身近にあり、水と共に生きていく私たちが、地球上にある水は無限ではない。地球上にある水のうち、飲料水などに利用できる淡水は二・五パーセントで、人間が利用しやすい場所に存在する水はそのうちの、約〇・四パーセントしかない。また、環境省による世界の年間水使用量は、一九五

○年から二〇〇〇年にかけて約二・九倍に増えてきている。このままでは、いつか世界中で水不足になってしまいかもしれない。

水を限りある資源だと考えながら使っている人は少ないだろう。私も手を洗うときなどに、水を出したままにしてしまうことがある。しかし、いつその時がやってくるか分からない。ある日突然、雨が降らなくなる時がくるかもしれない。そんな時、もっと水を大切に使えばよかったと後悔しても遅いのだ。それなら、今からそうすればいい。水は限りある資源だと理解し、節水など水を大切にすることを起こす。もし、それが世界へ広まれば、今より多くの人々が水を大切にすると、よりよい未来へ繋がっていくことができると私は信じている。